

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月14日現在

機関番号：62601

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22730650

研究課題名（和文） 地方教育行政における学校改善支援機能の開発に関する日英比較研究

研究課題名（英文） The comparative study on the development of school improvement support functions in local educational authority

## 研究代表者

植田 みどり (UEDA MIDORI)

国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部 総括研究官

研究者番号：20380785

## 研究成果の概要（和文）：

本研究は、学校評価の導入により学校改善支援の機能が期待される中での教育委員会の指導行政の在り方の見直しが必要であるという問題意識に基づき、現在日本の指導行政の課題を解明し、そこから浮かび上がる課題を解決する視点をイギリスの学校改善支援の施策や実態の分析を通じて得て、今後の地方教育行政に求められる学校評価結果を活用した学校改善支援の機能開発のための方策を考察することを目的としている。

2年間を通じて、日本とイギリスにおける地方教育行政機関が持つ学校改善支援の視点からの①先行研究のレビュー、②実態把握、③日本における学校改善支援の機能開発について取り組んできた。

第1に先行研究のレビューでは、イギリスにおける地方当局（地方教育当局）に関する昨日変容において、キーワードとなる「支援」機能としての「critical friends」という概念の整理を行うことが出来た。

第2に実態把握では、政策分析とSIP（School Improvement Partners）等の実態把握を通して、「支援」機能の内容解明と、「支援」機能を遂行する上で必要な資質能力について解明することが出来た。また、日本については、現在の指導主事の実態把握と課題分析のためのアンケートを行い、課題の把握をすることが出来た。

第3に日本における日英の学校改善支援の実態把握のためのヒアリング調査と質問紙調査を実施し、今後の日本の地方教育行政における学校改善支援の機能開発のための方策を検討する視点を得ることができた。ただし、具体的な研修プログラム等の開発までには至らなかった点は今後の課題である。

## 研究成果の概要（英文）：

Based on the awareness that it is necessary to review the way of guidance administrative Board of Education in the function of school improvement support is expected with the introduction of school evaluation, this study, understand the challenges of leadership government of Japan current for functional development of school improvement support to get through the analysis of the actual situation and

measures of school improvement support the U.K. (England) point of view you have, to solve the problems emerge from there, utilizing the school evaluation results that will be required for the local education administration in the future it is intended to consider measures.

Throughout the two years, I have been working for feature development reviews ① previous studies from the point of view of school improvement support local education administrative agencies in Japan and the England have, ② actual situation, ③the school improvement support in Japan.

A review of previous research, it was possible in yesterday transformation on (local education authorities) local authorities in England, to sort out the concept a keyword as a "support" feature called "critical friends" in the first.

In the actual situation, it is possible through the actual situation and the SIP policy analysis of (School Improvement Partners), etc., to elucidate qualities capacity needed to carry out the content and clarification of "support" function, the "support" function in the second was. As for Japan, it was possible to conduct a survey for the task analysis and the actual conditions of the current supervisors, to the understanding of the challenges.

Viewpoint conducted a questionnaire survey and interviews for actual situation of school improvement support of Japanese and English in Japan in the third, to consider measures for the functional development of school improvement support in local educational administration of Japan in the future it was possible to obtain. However, except that it did not reach to the development of training programs such as concrete is a challenge for the future.

#### 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成22年度	800,000		800,000
平成23年度			
平成24年度	900,000		900,000
年度			
年度			
総計	1,700,000		1,700,000

研究分野：人文社会

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：指導行政、学校改善支援、イギリス、地方教育行政

#### 1. 研究開始当初の背景

学校評価制度が導入され、教育委員会に対して、学校評価結果に基づく学校改善支援や条件整備の機能が求められるようになった。

しかし、実態としては学校経営に関する改善支援については十分機能していない実態があった。

そこで、教育委員会が持つべき学校改善

支援の機能を解明し、その機能を担うべき指導主事制度の在り方について検討する必要があった。

その一方で、本研究がフィールドとしたイギリスでは、1980年代の教育改革の中で、地方当局（地方教育当局）の機能を支援機能に転換し、その機能の充実を図るための政策をとっていた。

## 2. 研究の目的

学校評価の導入により学校改善支援の機能が期待される中での教育委員会の指導行政の在り方の見直しが必要であるという問題意識に基づき、本研究は、現在日本の指導行政の課題を解明し、そこから浮かび上がる課題を解決する視点をイギリスの学校改善支援の施策や実態の分析を通して得て、今後の地方教育行政に求められる学校評価結果を活用した学校改善支援の機能開発のための方策を考察することが本研究の目的である。

そこで、次の3点を研究課題として設定する。

- ①日本の指導主事制度の実態を把握し、現在の指導行政の課題を解明する
- ②イギリスの学校改善支援に関する施策の分析を行い、学校改善支援の機能の在り方を検討する
- ③イギリスから得た示唆を基に、日本での地方教育行政における学校評価結果を活用した学校改善支援の機能開発のための方策を検討する

## 3. 研究の方法

①文献研究、②フィールド調査、③アンケートの方法を用い、先行研究、実態把握を行い、考察のための基礎資料の収集を行った。

## 4. 研究成果

第1に先行研究のレビューでは、イギリス

における地方当局（地方教育当局）に関する昨日変容において、キーワードとなる「支援」機能としての「critical friends」という概念の整理を行うことが出来た。

第2に実態把握では、政策分析とSIP（School Improvement Partners）等の実態把握を通して、「支援」機能の内容解明と、「支援」機能を遂行する上で必要な資質能力について解明することが出来た。また、日本については、現在の指導主事の実態把握と課題分析のためのアンケートを行い、課題の把握をすることが出来た。

第3に日本における日英の学校改善支援の実態把握及びのためのヒアリング調査と質問紙調査を実施し、今後の日本の地方教育行政における学校改善支援の機能開発のための方策を検討する視点を得ることができた。ただし、具体的な研修プログラム等の開発までには至らなかった点は今後の課題である。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

(1)植田みどり、イギリス地方教育行政改革の研究－学校への経営支援における地方当局の機能を中心に－、学校経営研究、査読有、第38巻、2013、pp. 48-70

〔学会発表〕（計2件）

(1)質の高い地方教育行政経営の在り方－Best Valueの理念を手がかりに－（日本教育経営学会、2010年6月）

(2)地方教育行政における指導行政の在り方－イギリスのSIPの改編を通して－（日本教育行政学会、2012年10月）

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

植田みどり (UEDA MIDORI)

国立教育政策研究所 教育政策・評価研究  
部 総括研究官

研究者番号 20380785

研究者番号：

### (2)研究分担者

( )

研究者番号：

### (3)連携研究者

( )

研究者番号：